



第5回 「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦要項
(平成20年度)

1. 趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要があります。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました。

2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 授賞

授賞数は20件程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します。

なお、日本学士院により、日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます。

4. 対象者

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成20年4月1日現在以下の条件を満たす者とします。

- 1) 45歳未満であること
- 2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます。）
- 3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定していること（なお、日本国籍を有する者の場合はこの条件を問いません。）

注：推薦は、2年間有効です。

第4回（平成19年度）に推薦された候補者についても、今回の審査の対象となりますが、1年間の研究活動により新たな研究業績を重ねていると思われる候補者については、改めて推薦されることをお勧めします。

5. 推薦権者

- 1) 我が国の大学等研究機関の長（機関長推薦）
- 2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者（個人推薦）

※自薦は受け付けません。

6. 推薦手続

1) 提出書類

- ①「受賞候補者推薦名簿」（機関長推薦用・個人推薦用の2種類があります）

—————原本1部（様式1）

- ②「推薦書」—————原本1部、写し6部（様式2）

- ③「業績調書」—————原本1部、写し6部（様式3）

- ④「推薦理由書A、B」*注1—————それぞれ原本1部、写し6部（様式4）

- ⑤ 論文の別刷・著書・その他の業績資料（5件以内）*注2—————各4部

- ⑥「業績調書一覧」—————各4部（様式5）

注1：④は、推薦者以外の2名から、それぞれ作成いただくものです。

注2：⑤は、③「業績調書」（様式3）の「Ⅲ【研究業績B】」の番号に一致するようそれぞれ番号を論文の別刷等の表紙に記入し、上から若い番号順に取りまとめ、⑥「業績調書一覧」（様式5）とともにクリップ留め（又は梱包）してください。

2) 応募方法

(i) 候補者毎に、②～④を片面印刷し番号順に1部ずつ重ねて、左上をホチキスでとめてください。

(ii) ①を表紙とし、そのリスト順に(i)をセットして、⑤を添え提出してください。

7. キャリーオーバーについて

第4回（平成19年度）に推薦された候補者のうち、平成20年4月1日現在で45歳未満の候補者の推薦は、「キャリーオーバー」として第5回（平成20年度）まで審査対象としています。しかしながら、1年間で新たな研究業績を重ねていると思われる候補者については、改めて推薦されることをお勧めします。

8. 受付期間

平成20年5月28日（水）～29日（木）（必着）

（午前10時から正午まで及び午後1時から午後5時まで）

9. 選考及び選考結果の通知

日本学術振興会に設置する審査会において選考し、平成21年1月中旬頃推薦者に通知します。選考の過程では、推薦時の申請領域・分科細目に限らず、関連する他分野の観点からも審査することがあります。

なお、日本学士院学術奨励賞については、同院において選考され、平成21年2月頃直接通知されます。

10. 授賞式

平成21年3月頃に行う予定です。詳細については、選考結果とともに受賞者に通知します。

11. その他

- 1) 推薦書等は、所定の様式を使用してください。なお、推薦書等は本会のホームページ (<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>) よりダウンロードすることができます。
- 2) 推薦書等の提出後、その記載事項を変更または補充することはできません。
- 3) 提出された推薦書及び業績資料等は返却しません。
- 4) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。
- 5) 受賞者の氏名、略歴及び授賞の対象となった研究業績等は公表されるのであらかじめ承知願います。
- 6) 受賞者には、我が国の学術の振興、本会の事業の充実等のため、協力を依頼することがあります。
- 7) 推薦書類に含まれる個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び本会の「個人情報保護規程」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のために利用します。

12. 推薦書類の提出先及び問い合わせ先

推薦書類は下記へ持参、又は配達記録の残る方法での送付によって提出してください。

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

独立行政法人 日本学術振興会

総務部 研究者養成課 「日本学術振興会賞」担当

TEL 03-3263-0912

FAX 03-3222-1986

ホームページアドレス

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>

参考

I 第4回(平成19年度)日本学術振興会賞について

1. 第4回(平成19年度)推薦状況

()は、前回の人数

第4回(平成19年度)			キャリアオーバー ^{※2}	合計
機関長推薦	個人推薦	計 ^{※1}		
195人(208人)	62人(68人)	255人(275人)	160人(140人)	415人(415人)

※1 重複推薦を除く。

※2 本賞の推薦は2年間有効であり、前回の被推薦者から受賞者及び当該年度の4月1日時点で45歳を超える者を除いた者を審査対象者とする。

2. 第4回(平成19年度)日本学術振興会賞日程

推薦依頼	平成19年4月10日
推薦受付	平成19年6月4日～6日
予備審査 (学術システム研究センター)	平成19年6月下旬～10月中旬
審査会	平成19年10月31日
受賞者決定報道発表	平成19年12月25日
授賞式	平成20年3月3日

II 過去の受賞人数

	日本学術振興会賞	日本学士院学術奨励賞
第4回(平成19年度)	23名	5名
第3回(平成18年度)	25名	5名
第2回(平成17年度)	24名	5名
第1回(平成16年度)	25名	5名

第4回（平成19年度）日本学術振興会賞受賞者一覧

系別	受賞者氏名（性別），（年齢）	所属機関 職名	授賞の対象となった研究業績
人 社 系	アオヤマ カスオ 青山 和夫（男），（44）	茨城大学 人文学部 教授	古典期マヤ人の日常生活と政治経済組織の研究
	イシカワ ヨシロ 石川 禎浩（男），（43）	京都大学 人文科学研究所 准教授	中国共産党史、および近現代日中文化交流をめぐり歴史的研究
	イワシタ アキヒロ 岩下 明裕（男），（44）	北海道大学 スラブ研究センター 教授	ロシア外交および中国・ロシア関係
	キクサワ リツコ 菊澤 律子（女），（40）	人間文化研究機構 国立民族学博物館 准教授	オーストロネシア諸語に関する言語文化論的研究
	ノブキ ダイチ 野崎 大地（男），（40）	東京大学 大学院教育学研究科 准教授	身体運動の制御・学習を支える神経メカニズム
理 工 系	イシブチ ヒサオ 石淵 久生（男），（44）	大阪府立大学 大学院工学研究科 教授	計算知能の高度化に関する先駆的研究
	オオコシ シンイチ 大越 慎一（男），（41）	東京大学 大学院理学系研究科 教授	磁気化学を基盤とした新規磁気物性の創出に関する研究
	オオツキ トモタダ 大槻 知忠（男），（41）	京都大学 数理解析研究所 准教授	結び目と3次元多様体の不変量の研究
	オカベ セトシ 岡部 聡（男），（43）	北海道大学 大学院工学研究科 准教授	複合系バイオフィルム内の微生物群集構造と機能の解明
	オキ タイカン 沖 大幹（男），（42）	東京大学 生産技術研究所 教授	地球規模の水循環変動と世界の水資源需給の予測
	オシカワ マサキ 押川 正毅（男），（39）	東京大学 物性研究所 教授	量子多体系の磁性・伝導現象の新たな理解
	タノ ヒトシ 田畑 仁（男），（42）	東京大学 大学院工学系研究科 教授	酸化物人工格子およびナノバイオ融合エレクトロニクス研究
	ニシザカ タカユキ 西坂 崇之（男），（38）	学習院大学 理学部 准教授	1分子レベルにおけるタンパク質の構造と機能の相関メカニズムの解明
	ハズミ マサシ 羽澄 昌史（男），（42）	高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授	B中間子におけるCP対称性の破れの発見
マンモト マコト 松本 眞（男），（42）	広島大学 大学院理学研究科 教授	実用上ほぼ理想的な乱数発生法の開発	
生 物 系	アシカリ モトユキ 芦刈 基行（男），（37）	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 教授	イネの生産性向上に関与する遺伝子の同定と優良新品種の作出
	ツカヤ ヒロカズ 塚谷 裕一（男），（42）	東京大学 大学院理学系研究科 教授	葉の形態形成メカニズムの解明
	ナカダ カスト 中田 和人（男），（38）	筑波大学 大学院生命環境科学研究科 准教授	ミトコンドリアゲノム突然変異によるミトコンドリア病発症機構の解明
	ハヤシヤスノリ 林 康紀（男），（41）	理化学研究所 脳科学総合研究センター ユニットリーダー マサチューセッツ工科大学 脳認知学部 アシスタント・プロフェッサー	海馬シナプス可塑性の分子機構
	ヒラオ アツシ 平尾 敦（男），（43）	金沢大学 がん研究所 教授	造血幹細胞維持メカニズムの解明
	フカツ タケマ 深津 武馬（男），（40）	産業技術総合研究所 生物機能工学研究部門 研究グループ長	昆虫類と微生物の共生システムに関する研究
	フシウラ トオル 藤原 徹（男），（42）	東京大学 生物生産工学研究センター 准教授	植物におけるホウ素輸送体の発見
	ミスシマ ノボル 水島 昇（男），（40）	東京医科歯科大学 大学院歯学総合研究科 教授	オートファジーの分子生物学的・生理学的機能の解明

※所属機関・職名は、平成20年1月1日現在。年齢は平成19年4月1日現在。